

2025年度の県立高校統廃合対象校名発表に対する書記長談話

県民の願いを大切にして、地域の高校を守り、少人数学級を実現するため、 統廃合計画に反対しその撤回を求めています

7月14日、県教育委員会議は、「県立高等学校教育改革第3次実施計画」における高校統廃合方針に基づき、県教委事務局から出された2025年度の県立高校統廃合対象校14校を承認しました。高教組は、県教委に対して、統廃合の対象となる高校の生徒・保護者・地域住民・教職員・卒業生など関係者の意見をよく聞くことを求めています。そのような手続きを経ず、対象校を決定・発表したことに強く抗議します。

14校を6校に～未曾有の大規模な統廃合計画～

対象とされたのは、第1学区(神戸・芦屋)では、神戸北・神戸甲北、伊川谷・伊川谷北の4校を2校に、第2学区(阪神・丹有)では、西宮北・西宮甲山の2校を1校に、第3学区(北播磨)では、三木北・三木東・吉川の3校を1校に、第4学区(中播磨)では、福崎・夢前、網干・家島・姫路南の5校を2校に、という未曾有の大規模な統廃合計画です。さらに、2028年度には12校を6校に統廃合する計画があり、およそ看過できるものではありません。

遠距離通学、地域の衰退など問題山積

高校がなくなる地域は、子どもたちが遠距離通学を強いられ、高い通学費とあわせ子育てがしにくい地域となり、人口減少に拍車がかかることになりかねません。コロナ感染拡大でいっそうその重要性が明確になった、一極集中ではない分散型の地域発展にも逆行します。

少子化は少人数学級実現のチャンス

生徒数減少を理由に、高校を機械的に統廃合することは、多くの人々が望んでいる少人数学級実現に背を向ける行為です。すみやかに全県一斉に少人数学級を実現すべきですが、それが無理なら、まず経過措置として過疎化が進む地域から少人数学級を実現することで、一人ひとりを大切にすゆきとどいた教育へのさらなる一歩を踏み出すことができます。世界各国と比較して多すぎる1学級40人の早急な改善こそが、今、求められています。

生徒・保護者・地域住民・教職員・卒業生など関係者ととともに撤回に向けて奮闘します。

教育の主人公は何より生徒です。高教組は、対象となる高校の、生徒・保護者・地域住民・教職員・卒業生など関係者の意見・声をよく聞くことを県教委に求めます。数あわせの一方的・機械的な高校統廃合は、兵庫の教育に大きな禍根を残します。高教組は、自治体と懇談する中で、地元の高校に対する熱い思いと期待を感じてきました。今回、校名が発表されたからといって全ての計画が必ずしも完全に実施されるという訳ではありません。今後は、保護者・地域住民・卒業生など広範な人々とともに、機械的な高校再編に反対し、計画撤回を求める運動を進めていく決意です。

2022年7月14日

兵庫県高等学校教職員組合
書記長 赤松弘基